

病院で働くすべてのの方のための医療安全研修 e ラーニングツール  
～医療安全を基礎から学び、インシデントを事例動画で疑似体験～

# セーフティプラス

全国 400 以上の病院、クリニック、  
看護学校、医学部などでご採用！



すべての職員の意識を高め、医療の質向上に貢献

基礎  
シリーズ

医療安全の共通の認識・知識・技能を体系的に学べる

事例  
シリーズ

豊富な事例に基づき、臨場感ある再現動画で  
インシデントへの対処法を分かりやすく学べる

動画講義  
シリーズ

著名な講師陣による動画講義で、専門領域の  
最新知見や知識を学べる

# こんなお悩みはございませんか？

## 医療安全管理者

CASE1

院内研修の企画・  
運営業務を軽減  
したい



日本医療機能評価機構のインシデントレポートに基づく豊富な事例で、院内研修の企画・運営に係る負担を軽減できます。



CASE2

インシデントの  
予防や対処に効果  
的な医療安全研修  
にしたい



インシデントの背景まで理解できる疑似体験動画を収録したコース構成で、インシデントへの対処をしっかりと身に付けることができます。

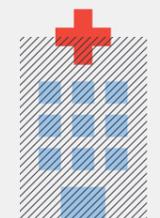


CASE3

医療安全対策  
マニュアルを院内に  
浸透させたい



資料追加機能で施設独自のマニュアルを全職員で共有することができます。



CASE4

医療安全研修の  
受講率を 100% に  
したい



時間や場所の制約なく受講者の都合に合わせて受講できるため、受講率の向上を可能にします。また、未受講者の確認や一括リマインドメール配信などの機能が充実しています。



## 医療安全研修受講者

CASE1

私は医療職ではないので、医療安全のことはよく分からない、難しそうと感じてしまう



病院で働くすべての方に向けて作られた SafetyPlus 基礎シリーズでは、日常生活に即したドラマで医療安全の基礎を分かりやすく学ぶことができます。



CASE2

医療安全が自分の仕事とどのように関係するのかをイメージしにくい



医師や看護師だけでなく事務職員など、さまざまな職種の方が体験する事例を扱っているので、当事者意識を持って学ぶことができます。



CASE3

決められた研修の時間に集合することが難しい



スマホ、タブレット、パソコンでいつでもどこでも受講可能です。



CASE4

自己学習において、まとまった時間の確保が難しい

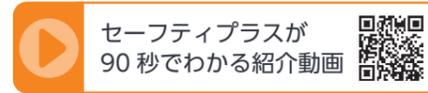


動画は効果的に学べる短さで作られており、受講者の都合に合わせて受講できます。

例：動画講義は 1 コマ 15 分から収録



# 製品構成



SafetyPlus は 3 つのシリーズ構成になっています。

## 1. 基礎シリーズ

病院で働くすべての職員が身につけるべき、医療安全における共通の認識・知識・技能を体系的に学ぶことができます。

- ・医療安全の意義や目的を理解して、医療安全の全体像が把握できるようになっています。
- ・日常生活に即した親しみやすいドラマから医療安全に必要なテクニックを分かりやすく学べる構成になっており、また、必要最小限の専門用語で解説しています。
- ・医療安全の専門用語を暗記するのではなく、自らの業務の中で実践できるような演習を用意し、具体的テクニックを身に付けられます。

## 2. 事例シリーズ

豊富な事例に基づき、臨場感ある再現動画で、インシデントへの対処法を分かりやすく学ぶことができます。

- ・受講者の注意、興味を引きやすく、当事者意識を持って学べる内容です。
- ・振り返りの質問や学習のポイント解説付きで知識を学ぶことができ、定着が図れる効果的なコース構成になっています。
- ・振り返りから発生時の対応まで、コースに沿って学ぶことができ、身に付く研修を可能にします。

## 3. 動画講義シリーズ

医療安全の基本や心理的安全性など、専門領域の知識を著名な講師陣の講義で学ぶことができます。

- ・各領域の第一人者の方々の講義により、最新の知識・トピックスを聴講できます。
- ・各動画は 20 分以内で構成しており、院内研修に組み込んで研修を効果的に行うことができます。

### <全シリーズ共通：充実した管理者機能を搭載>

施設独自コースの作成、ファシリテーションマニュアル、一括リマインドメール配信、レポート機能など便利な機能を揃えています。

# 学習の流れ

## Step 1 事例紹介、再現動画（ドラマ）

基礎  
シリーズ

事例  
シリーズ

動画講義  
シリーズ



事例の概要を理解します。  
事例の再現動画（ドラマ）を見て疑似体験をします。

## Step 2 振り返り

事例  
シリーズ



何故このインシデントが起きたのか、個人で振り返る、またはグループでディスカッションします。

## Step 3 解説

基礎  
シリーズ

事例  
シリーズ

動画講義  
シリーズ



学習のポイント、詳細な解説、発生防止の提案、参照資料のリンクが表示されます。  
(事例シリーズは文章で、基礎シリーズ・動画講義シリーズは動画で表示)

## Step 4 自施設を想定した話し合い

基礎  
シリーズ

事例  
シリーズ

動画講義  
シリーズ



学んだ状況を自施設に当てはめて対応を考えます。

## Step 5 テスト

基礎  
シリーズ

事例  
シリーズ

動画講義  
シリーズ



テストで理解度を確認します。ランダムに選択肢の配置が換わります。

## Step 6 発生時の対応

事例  
シリーズ

自施設でインシデントが起きた場合の対応、独自のルールや環境を確認します。





# SafetyPlus® コース一覧

最新のコース一覧は公式ホームページからご覧ください。 <https://www.elsevier.com/ja-jp/solutions/safetyplus>

## 基礎シリーズ

No.	コース名				コース概要	対象者	階層別おすすめコース				
	レベル	サブレベル	カテゴリー	コース			全職種	若手	中堅層	管理職	
1-001	必修編	医療安全 3つの柱	医療安全 3つの柱	人は誰でも間違える	医療安全を実践するための第一歩として、医療安全の前提である「人は誰でも間違える」という考え方について学びます。 職種や役職、ベテラン・若手を問わず、人はいつでも誰でも間違える可能性があります。「人は誰でも間違える」という前提があることで何が出来るようになるか、また、この前提がなければどうなるのかを考えながら受講しましょう。	全ての職種	○	○	○	○	
1-002				失敗から学ぶ	医療安全の3つの柱の1つ、「失敗から学ぶ」について学習します。このコースでは、「失敗から学ぶ」ためにはどうしたらいいのか、必要な環境やコツを知ることができます。自分が失敗したあとの行動や気持ちを振り返りながら受講し、失敗した人にどのように接したらよいかを考えてみましょう。また、自分が失敗したときにはこのコースを見直してみてもいいでしょう。	全ての職種	○	○	○	○	
1-003				情報を共有する	医療安全では、「情報を共有する」ことが欠かせません。基礎シリーズでは、上手に情報を共有するためのさまざまなテクニックを学びますが、その前に、ここでは医療安全の観点から「情報を共有する」ことの目的を理解します。情報を共有することで何が可能になるのかに注目して受講しましょう。	全ての職種	○	○	○	○	
1-004	基本編	未然に防ぐ テクニック	実力を試してみよう	実力を試してみよう	ここでは、失敗を未然に防ぐテクニックについて、自分の実力を試します。最初に流れるドラマを見て、その後テストを受けます。動画は3つの場面構成されています。それぞれの場面で、誰が何をしているのかに注目してみましょう。	全ての職種	○	○	○	○	
1-005				復唱	復唱 1	仕事では頻りに情報伝達が行われます。その際に重要となるテクニックの一つである復唱について学びます。復唱の基本は、聞いた通りに繰り返し、確認することですが、漫然とやっても意味がありません。自分が普段どのように復唱を行っているのかを振り返りながら受講しましょう。	全ての職種	○	○	○	○
1-006					復唱 2	復唱は、聞いた通りに繰り返し、確認することが基本ですが、それだけでは聞き間違いなどで情報が正確に伝わらないこともあります。ここでは、復唱を上手に行うためのポイントを学習します。最初に復唱がうまくいかなかった場合のドラマが流れますが、自分の失敗経験も思い出しながら受講しましょう。	全ての職種	○	○	○	○
2-001				【演習】 話し合ってみよう 復唱	話し合ってみよう 復唱	この演習では、設定された項目について小グループで話し合います。復唱を行うべき場面とそれによって防ぐことができる間違いを挙げられるように、自分の業務を振り返ってみましょう。また、他の人の意見にも耳を傾けて、より適切な復唱の使い方を一緒に考えてみましょう。	全ての職種	○	○	○	○
2-002					【演習】 やってみよう 復唱	この演習では、依頼する・される役割を演じることで、復唱のポイントを確認し、身につけます。復唱のポイントを意識して取り組みましょう。	全ての職種	○	○	○	○
1-007				指差呼称	指差呼称 1	指差呼称の目的と基本を学びます。指差呼称の基本は「対象物を指で差し、それを目で注視して、声に出して確かめる」ことです。このコースを通して、なぜ指差呼称をすることで確認がより正確になるのかを理解することができます。	全ての職種	○	○	○	○
1-008					指差呼称 2	ここでは指差呼称を活用するタイミング・場面について学びます。指差呼称は、確認の精度を高めるだけでなく「意識を今に引き戻し、今、この作業に集中する」ためのテクニックとしても有効です。最初に流れるドラマも参考にしつつ、どうしたら忙しいときでも安全に仕事を進めることができるのかを考えながら、受講しましょう。	全ての職種	○	○	○	○
2-003					【演習】 話し合ってみよう 指差呼称	この演習では、設定された項目について小グループで話し合います。指差呼称を行うべき場面とそれによって防ぐことができる間違いを挙げられるように、自分の業務を振り返ってみましょう。また、他の人の意見にも耳を傾けて、より適切な指差呼称の使い方を一緒に考えてみましょう。	全ての職種	○	○	○	○
2-004					【演習】 やってみよう 指差呼称	この演習では、1つの文章に対して、2つの異なる読み方を実施し、指差呼称の効果を実験します。読み方で何がかわるのかに着目し、体験を振り返ってみましょう。また、他の人の意見にも耳を傾けて、体験をより深めましょう。	全ての職種	○	○	○	○

## 基礎シリーズ (続き)

No.	コース名				コース概要	対象者	階層別おすすめコース							
	レベル	サブレベル	カテゴリー	コース			全職種	若手	中堅層	管理職				
1-009	必修編	医療安全 3つの柱	医療安全 3つの柱	ダブルチェック 1	ダブルチェックの基本は2人で確認することですが、ここではダブルチェックを「2つの脳」を使った確認の方法」として学びます。なぜダブルチェックを「2つの脳」を使った確認の方法」と表現しているのか、その理由に注目して受講しましょう。	全ての職種	○	○	○	○				
1-010				ダブルチェック 2	医療機関では、日常的に目撃頻りにダブルチェックを行っています。しかし、ダブルチェックには落とし穴もあります。最初に流れるドラマを参考にしながら、ダブルチェックの注意点を理解し、効果的にダブルチェックを実施するためのコツを学んでいきましょう。	全ての職種	○	○	○	○				
2-005				【演習】 話し合ってみよう ダブルチェック	話し合ってみよう ダブルチェック	この演習では、設定された項目について小グループで話し合います。現在、職場で行われているダブルチェックについて、ダブルチェックがどのような役割を果たしているのかを説明できることを目標に、場面や手順について振り返ります。さらに、他の人の意見にも耳を傾けて、より適切なダブルチェックの方法を一緒に考えてみましょう。	全ての職種	○	○	○	○			
2-006					【演習】 やってみよう ダブルチェック	この演習では、複数の媒体を照合する場合を想定し、ダブルチェックすることによって、やりとりの中で間違いを見つける作業を体験します。ダブルチェックの手順とポイントを身につけるとともに、ダブルチェックによって間違いを見つけやすくなることを体感してみましょう。	全ての職種	○	○	○	○			
1-011				基本編	未然に防ぐ テクニック (続き)	ダブル チェック	総合評価 テスト	失敗を未然に防ぐテクニックである「復唱」「指差呼称」「ダブルチェック」に関する基礎的内容のテストです。自分の理解を確認してみましょう。	全ての職種	○	○	○	○	
1-012							実力を試してみよう	実力を試してみよう	インシデントレポートについて、現在の認識を確認します。最初に流れるドラマを見て、その後テストを受けます。主人公であるタクシー運転手の発言や行動に注目してみましょう。 ※医療安全分野において、インシデント、アクシデント、オカレンス、事故などの用語を使うことがありますが、ここではそのすべてをインシデントという言葉で統一して使用しています。	全ての職種	○	○	○	○
1-013								インシデント レポート	インシデントレポート 1	インシデントレポートについて学ぶために、まず、インシデントそのものについて学びます。医療施設には業務内容に関係なくさまざまなインシデントが多く存在します。インシデントには何が含まれるのか、その具体的な内容について知ること、インシデントに気が付くきっかけを増やします。 ※「インシデントレポート」という名称については、事象や影響度により「アクシデントレポート」「事故報告書」「オカレンス報告」など、形式や名称をさまざま変えて対応する施設もありますが、本シリーズでは基本的考え方の習得を重視することから、すべての総称として「インシデントレポート」を採用しています。実際にレポートを提出する際には、所属する施設の形式に合わせてください。	全ての職種	○	○	○
2-007							【演習】 話し合ってみよう 「インシデントレポート」1		この演習では、自分が遭遇したインシデントをまず書き出し、それを小グループで共有します。この演習を通して、さまざまなインシデントがあることを理解しましょう。	全ての職種	○	○	○	○
2-008							【演習】 やってみよう 「インシデントレポート」1		この演習では、1枚のイラストから複数のインシデントを書き出します。この演習を通して、身の回りのインシデントに気づく大切さを理解しましょう。	全ての職種	○	○	○	○
1-014							インシデントレポート 2		インシデントはどうして起こるのでしょうか。インシデントが起こる背景には複数の要因が存在します。しかし、インシデントレポートを書く際には当事者意識もあり、「当事者である自分」以外の要因まで視野を広げられないことも少なくありません。今回はインシデントの背景にはさまざまな要因があるということについて、動画を用いて具体的に学びます。 ※「インシデントレポート」という名称については、事象や影響度により「アクシデントレポート」「事故報告書」「オカレンス報告」など、形式や名称をさまざま変えて対応する施設もありますが、本シリーズでは基本的考え方の習得を重視することから、すべての総称として「インシデントレポート」を採用しています。実際にレポートを提出する際には、所属する施設の形式に合わせてください。	全ての職種	○	○	○	○
2-009	【演習】 話し合ってみよう 「インシデントレポート」2	話し合ってみよう 「インシデントレポート」2	この演習では、患者さんの取り違えが描かれた動画を視聴し、このインシデントの背景にある要因を書き出します。そして、それを小グループで共有します。この演習を通して、着目する点によって異なることを理解しましょう。				全ての職種	○	○	○	○			
2-010		【演習】 やってみよう 「インシデントレポート」2	この演習では、事例を読み、インシデントの背景にある要因を書き出します。この演習を通して、インシデントの背景にある要因は1つではないことを理解しましょう。				全ての職種	○	○	○	○			



基礎シリーズ (続き)

No.	コース名			コース概要	対象者	階層別おすすめコース					
	レベル	サブレベル	カテゴリー			コース	全職種	若手	中堅層	管理職	
1-015	基本編 (続き)	インシデントレポート (続き)	インシデントレポート (続き)	インシデントレポート3	インシデントレポートは、インシデントの内容を報告するレポートです。しかし、この言葉だけでは何を書けばいいのかわかりにくいという人もいます。このコースでは、インシデントレポートを書くイメージを掴むために、インシデントレポートとは何か、何を報告するのかを学びます。 ※「インシデントレポート」という名称について：事象や影響度により「アクシデントレポート」「事故報告書」「オカレンス報告」など、形式や名称をさまざま変えて対応する施設もありますが、本シリーズでは基本的考え方の習得を重視することから、すべての総称として「インシデントレポート」を採用しています。 実際にレポートを提出する際には、所属する施設の形式に合わせてください。	全ての職種	○	○	○	○	
2-011				【演習】話し合ってみよう「インシデントレポート3」	この演習では、インシデントレポートで意識したい「〇〇にくい」と感じたり、危ない・怖い等の不快な感情を抱いたりする作業や環境について、自分の業務を振り返って書き出します。そして、それを小グループで共有します。違う視点で改めて業務を振り返る体験とともに、それぞれが感じることに共通点や違いがあることを理解しましょう。	全ての職種	○	○	○	○	
2-012				【演習】やってみよう「インシデントレポート3」	この演習では、「インシデントレポート3」の動画を視聴し、感じたことを書きます。それまで自分がインシデントレポートに対して抱いていた印象と比較してみてもいいでしょう。	全ての職種	○	○	○	○	
1-016				インシデントレポート4	なぜインシデントレポートの提出が求められるのでしょうか。このコースでは、インシデントレポート提出の目的を学びます。また、インシデントレポートの提出は、患者さんや家族のためであることはもちろん、病院などの組織のほか報告者本人にもメリットがあります。インシデントレポートを提出する目的を学ぶことで、それぞれのメリットも具体的に理解します。 ※「インシデントレポート」という名称について：事象や影響度により「アクシデントレポート」「事故報告書」「オカレンス報告」など、形式や名称をさまざま変えて対応する施設もありますが、本シリーズでは基本的考え方の習得を重視することから、すべての総称として「インシデントレポート」を採用しています。 実際にレポートを提出する際には、所属する施設の形式に合わせてください。	全ての職種	○	○	○	○	
2-013				【演習】やってみよう「インシデントレポート4」	この演習では、「インシデントレポート4」の動画を視聴し、学んだことを書きます。インシデントレポートの目的や、提出によって得られる自分のメリットなどに着目して動画を視聴してみましょう。	全ての職種	○	○	○	○	
2-014				【演習】話し合ってみよう「インシデントレポート4」	この演習では、インシデントレポートの提出が自分や自分の所属する組織にとってどのように役立つのか、具体的に考えてみます。その後、それを小グループで共有することを通じて、インシデントレポートの本来の意義を自分に寄せて理解します。	全ての職種	○	○	○	○	
1-017				インシデントレポート5	インシデントレポートはどのように書いたらよいでしょうか。具体的な例を用いて、インシデントレポートを短時間で簡単に書くコツを2回に分けて学んでいきます。ここでは、主に文章の書き方のコツや意識するポイントについて学びます。 ※「インシデントレポート」という名称について：事象や影響度により「アクシデントレポート」「事故報告書」「オカレンス報告」など、形式や名称をさまざま変えて対応する施設もありますが、本シリーズでは基本的考え方の習得を重視することから、すべての総称として「インシデントレポート」を採用しています。 実際にレポートを提出する際には、所属する施設の形式に合わせてください。	全ての職種	○	○	○	○	
1-018				インシデントレポート6	インシデントレポートはどのように書いたらよいでしょうか。具体的な例を用いて、インシデントレポートを短時間で簡単に書くコツを2回に分けて学んでいきます。ここでは、書く必要があること、書く必要がないことは何かを学びます。 ※「インシデントレポート」という名称について：事象や影響度により「アクシデントレポート」「事故報告書」「オカレンス報告」など、形式や名称をさまざま変えて対応する施設もありますが、本シリーズでは基本的考え方の習得を重視することから、すべての総称として「インシデントレポート」を採用しています。 実際にレポートを提出する際には、所属する施設の形式に合わせてください。	全ての職種	○	○	○	○	
2-015				【演習】やってみよう「インシデントレポート5・6」	この演習では、事例を読み、既定の書式に記入しながら状況を整理します。そして、その中でインシデントとして報告するものを選択します。状況を整理したり、何を報告するかを選択したりという演習を通して、インシデントレポートの書き方のコツを体感します。	全ての職種	○	○	○	○	
2-016				【演習】話し合ってみよう「インシデントレポート5・6」	この演習では、グループで話し合いながら、事例を読み、既定の書式に記入しながら状況を整理します。そして、その中でインシデントとして報告するものを選択します。それをインシデントとして報告する理由も考えてみましょう。	全ての職種	○	○	○	○	
1-019				総合評価テスト	総合評価テスト	インシデントレポートに関する基礎的内容のテストです。自分の理解を確認してみましょう。	全ての職種	○	○	○	○

基礎シリーズ (続き)

No.	コース名			コース概要	対象者	階層別おすすめコース				
	レベル	サブレベル	カテゴリー			コース	全職種	若手	中堅層	管理職
1-020	基本編 (続き)	ヒューマンエラー	ヒューマンエラー	実力を試してみよう	ヒューマンエラーについて、現在の認識を確認します。最初に流れるドラマを見て、その後テストを受けます。登場人物の発言や行動に注目してみましょう。 ※ヒューマンエラーの分類は、研究によりさまざまな考え方があり、ここでは分類の詳細ではなく、どのようなものがヒューマンエラーであるのかを理解することをめざします。	全ての職種	○	○	○	○
1-021				ヒューマンエラー1 医療の安全はチームで守る	医療施設で起こるさまざまな問題の原因の一つにヒューマンエラーがあります。ここでは、ヒューマンエラーを減らすためにできることについて、具体的に学びます。	全ての職種	○	○	○	○
1-022				ヒューマンエラー2 ヒューマンエラーとは	ヒューマンエラーの原因や要因にはどのようなものがあるのでしょうか。ここでは、ヒューマンエラーの原因や要因の多様さや複雑さについて学ぶとともに、深掘りして考えるプロセスについて学んでいきます。このプロセスにより、ヒューマンエラーの再発予防につなげることができます。	全ての職種	○	○	○	○
2-017				【演習】(個人ワーク) やってみよう1・2: ヒューマンエラー	この演習では、経験したことがあるヒューマンエラーを書き出してみます。この演習を通して、ヒューマンエラーが身近なものであることを理解しましょう。	全ての職種	○	○	○	○
2-018				【演習】話し合ってみよう1・2: ヒューマンエラー	この演習では、経験したことがあるヒューマンエラーを書き出し、それを小グループで共有します。この演習を通して、さまざまなヒューマンエラーがあることを理解しましょう。	全ての職種	○	○	○	○
1-023				ヒューマンエラー3 意図せず生じるヒューマンエラー	ヒューマンエラーには種類があります。ここでは、そのうちの一つである、ふと起こってしまうエラーである「意図せず生じるヒューマンエラー」について学びます。ヒューマンエラー防止の着眼点を知ることで、ヒューマンエラーを防止し、やりにくい業務はやりやすく改善することができます。	全ての職種	○	○	○	○
2-019				【演習】(個人ワーク) やってみよう3: ヒューマンエラー	この演習では、動画を視聴して動画の中で起きたヒューマンエラーを書き出し、次にどうすれば防げたのかを考えます。この演習を通して、ヒューマンエラーを具体的に理解し、その対策を考えましょう。	全ての職種	○	○	○	○
2-020				【演習】話し合ってみよう3: ヒューマンエラー	この演習では、動画を視聴して動画の中で起きたヒューマンエラーを書き出し、次にどうすれば防げたのかを小グループで話し合います。この演習を通して、ヒューマンエラーを具体的に理解し、その対策を考えましょう。	全ての職種	○	○	○	○
1-024				ヒューマンエラー4 軽率な行為により生じるヒューマンエラー	ヒューマンエラーの中には、ルールや規則を守らないといった軽率な行為によって生じるものがあります。なぜルールを守らないのでしょうか。また、どうしたらルールを守ろうと思うのでしょうか。ここでは、「軽率な行為により生じるヒューマンエラー」を発生させる背景とその予防策を具体的に学びましょう。	全ての職種	○	○	○	○
2-021				【演習】(個人ワーク) やってみよう4: ヒューマンエラー	この演習では、動画を視聴して動画の中で起きたヒューマンエラーを書き出し、次にどうすれば防げたのかを考えます。この演習を通して、ヒューマンエラーを具体的に理解し、その対策を考えましょう。	全ての職種	○	○	○	○
2-022				【演習】話し合ってみよう4: ヒューマンエラー	この演習では、動画を視聴して動画の中で起きたヒューマンエラーを書き出し、次にどうすれば防げたのかを小グループで話し合います。この演習を通して、ヒューマンエラーを具体的に理解し、その対策を考えましょう。	全ての職種	○	○	○	○
1-025				ヒューマンエラー5 チームにおいて生じるヒューマンエラー	チームとは、共通の目的やゴールをめざしてお互いに影響を及ぼし合いながら仕事を行う2人以上のものを指します。このようなチームで仕事を行う場合にコミュニケーションがうまくいかず(伝達エラー)、悪い結果が生じることがあります。このコースでは、チームがうまく仕事を達成するためのいくつかの工夫について学びます。	全ての職種	○	○	○	○
2-023	【演習】(個人ワーク) やってみよう5: ヒューマンエラー	この演習では、動画を視聴して動画の中で起きたヒューマンエラーを書き出し、次にどうすれば防げたのかを考えます。この演習を通して、ヒューマンエラーを具体的に理解し、その対策を考えましょう。	全ての職種	○	○	○	○			
2-024	【演習】話し合ってみよう5: ヒューマンエラー	この演習では、動画を視聴して動画の中で起きたヒューマンエラーを書き出し、次にどうすれば防げたのかを小グループで話し合います。この演習を通して、ヒューマンエラーを具体的に理解し、その対策を考えましょう。	全ての職種	○	○	○	○			
1-026	ヒューマンエラー6 ヒューマンエラーの背後要因	ヒューマンエラーにはさまざまな背後要因があります。ここでは、ヒューマンエラーを起こした直接的な原因とその後ろにある背後要因、背後要因をもたらす管理的な要因について学びます。背後要因について学ぶことで、ヒューマンエラーを回避する対策や改善策を具体的に考えることができます。	全ての職種	○	○	○	○			
2-025	【演習】(個人ワーク) やってみよう6: ヒューマンエラー	この演習では、資料を読み、事例から考えられるヒューマンエラーの直接原因と背後要因を選択します。また、その対策についても考えます。具体的な事例から、ヒューマンエラーの直接原因と背後要因を理解し、その対策を考えてみましょう。	全ての職種	○	○	○	○			
2-026	【演習】話し合ってみよう6: ヒューマンエラー	この演習では、資料を読み、事例から考えられるヒューマンエラーの直接原因と背後要因を選択します。また、その対策についても考え、グループで共有しましょう。この事例から、直接原因と背後要因に対するさまざまな対策があることを理解しましょう。	全ての職種	○	○	○	○			
1-027	総合評価テスト	総合評価テスト	ヒューマンエラーに関する基本的な知識を問うテストです。自分の理解を確認してみましょう。	全ての職種	○	○	○	○		



# 事例・動画講義シリーズ

分類	No.	コース名 概要	実写 アニメーション	対象者	レベル別おすすめコース				ファシリテーション マニュアル掲載	学習ポイント
					全職種	基礎 レベル	中堅 レベル	管理者 レベル		
薬劑	1-1	知識不足によるインスリンの過量投与 患者さんに誤って100倍の量のインスリンを投与してしまった事例	実	看護師 薬剤師 医師		○	○		あり	・インスリン製剤の特徴 ・インスリン製剤を使用する際の注意点 ・低血糖を起こしたときの症状と対応方法
	1-2	アレルギー既往歴の確認不足 アレルギーの既往歴を十分に確認しないまま抗生剤を投与し、アナフィラキシーショックを来した事例	実	医師 看護師 薬剤師		○	○	○	あり	・電子カルテアラート機能の特性 ・アラート機能を有効活用するための対策 ・アレルギー情報の管理
	1-3	医師の処方ミス ステロイド剤を投与するはずの患者さんに、似た名前の筋弛緩薬を投与してしまった事例	実	医師 看護師 薬剤師		○	○	○	あり	・医薬品による事故を防ぐ方法 ・医師等他者の指示・対応に疑問があるときの対応 ・医師の処方ミスが起こる原因
	1-4	錠剤の飲みこぼし 患者さんが自己管理薬剤の血糖降下剤が落ちていないことに気づき、自己判断で追加して服用し、低血糖を起こし転倒した事例	実	薬剤師 看護師 医師		○	○		あり	・薬剤の管理体制を判断するときの基準 ・患者さんが安全かつ確実に内服するための服薬指導のしかた
	1-5	小児に対する薬剤の過量投与 新生児の不整脈治療において薬剤を誤って過量に投与してしまった事例	ア	医師 看護師 薬剤師			○	○	あり	・メディケーションエラーとその防止策 ・多職種間での情報共有、コミュニケーションの重要性 ・ハイリスク薬の取り扱いと処方チェック体制 ・小児の薬剤用量の理解
	1-6	抗がん剤の血管外漏出 抗がん剤の血管外漏出の発見が遅れ、皮膚障害が起こってしまった事例	実	看護師 薬剤師 医師		○	○		あり	・抗がん剤投与を安全に行うための重要事項の理解 ・抗がん剤投与中の観察事項とケア ・抗がん剤の血管外漏出時の事故を最小限にするための対応
	1-7	持参薬の確認不足 持参薬の確認不足により併用禁忌薬を投与し、患者さんがてんかん発作を起こしてしまった事例	実	医師 看護師 薬剤師		○	○		あり	・持参薬の継続使用に関する課題点 ・持参薬の取り扱いに関する手順 ・事故を防ぐための体制
	1-8	KCLの誤投与 点滴ボトルに混注するべきカリウム製剤を、ワンショット投与した結果、患者さんが急変してしまった事例	実	薬剤師 看護師 医師		○	○	○	あり	・カリウム製剤の特性についての知識 ・薬剤投与時の基本的な確認事項の確認方法 ・カリウム製剤を含むハイリスク薬の管理体制
	1-9	抗がん剤の過量投与 抗がん剤テモダールを服用していた患者さんが骨折のため整形外科で手術入院となったが、持参薬であったテモダールの連日投与により死亡した事例	実	薬剤師 医師 看護師			○		あり	・抗がん剤を継続使用する際の注意点 ・チームで事故を防ぐ方策 ・持参薬の継続使用における注意点 ・人為的ミスを防ぐためのシステム構築
	1-10	パニック値に対する不適切な対応 高カリウム血症の患者さんに適切な対応ができず、さらにカリウム製剤を投与し、患者さんの病態が急変した事例	実	薬剤師 看護師 医師 臨床検査技師		○	○	○	あり	・視覚の特性と見落とし ・パニック値の取り扱いについて説明できる ・現場力による安全防護を理解できる
治療・処置	2-1	グリセリン洗腸に伴う直腸穿孔 5日間排便のない患者さんに対し、立位でグリセリン洗腸をしたため直腸裂傷と穿孔を起こし、緊急で人工肛門増設術に至った事例	ア	看護師 医師 薬剤師		○	○		あり	・グリセリン洗腸施行前・中・後の効果的な安全対策 ・グリセリン洗腸施行前・後の患者さんへのアセスメント ・グリセリン洗腸の禁忌
	2-2	搬送時の患者取り違え 病棟看護師から手術室看護師に引き継ぎ時、手術室入室時に患者さんを取り違えてそのまま手術してしまった事例	ア	すべての職種		○	○		あり	・搬送時の患者取り違えのエラー特性と原因 ・患者確認のタイミングと方法 ・コミュニケーション・スキル ・患者確認の手順
	2-3	手術時のガーゼ遺残 ガーゼカウントが合わないまま閉鎖してしまった結果、腹腔内にガーゼが遺残してしまった事例	ア	医師 看護師 放射線技師		○	○		あり	・手術時に異物遺残が起こりやすい状況 ・機器・ガーゼカウントの方法とタイミング ・カウントが合わないときの対策
	2-4	針刺し事故発生時の対応 看護師が患者さんの採血後に、誤って自分の指先を針で刺してしまった事例	ア	すべての職種		○	○		あり	・安全な針の取り扱い ・針刺し事故を予防する環境づくり ・針刺し事故が起きた場合の初期対応
	2-5	電気メスの誤った取り扱いによる熱傷 電気メスペンシルによって起きた熱傷事故	ア	医師 看護師 臨床工学士		○	○		あり	・電気メスに関して起こりやすい医療事故 ・電気メスの正しい取り扱い ・電気メスに関する医療事故の原因と対策 ・チーム医療を円滑にするためのコミュニケーション・スキル ・事故が起きてしまったときの対応策
	2-6	外来での患者取り違えによる誤注射 外来で事務職員が、インフルエンザワクチン接種希望で来院した患者さんの問診票を別の患者さんの診療ファイルに入れてしまったことをきっかけに、誤って別の患者さんに接種してしまった事例	実	事務職員 医師 看護師 薬剤師		○	○		あり	・チーム医療における事務職員の役割 ・事務職員における確認の必要性とその重要性 ・チーム医療における双方コミュニケーションの重要性
	2-7	手術部位の左右取り違え 骨肉腫による下肢切断術の際に、手術部位の左右確認が行われなかったために、左右を間違えて手術を行ってしまい、結果として両下肢切断になってしまった事例	実	看護師 医師 看護補助者		○	○	○	あり	・適切な手術部位のマーキングの方法手順を説明できる ・手術時における手術部位確認のタイミング、方法を説明できる ・タイムアウトの方法手順を説明できる
	2-8	RRSでコードブルーを防げ! 左大腿骨頭部骨折で入院中にカテーテル関連尿路感染による敗血症を併発し、早期介入されず敗血症性ショックを来したICU入室となった事例	実	看護師 医師		○	○		あり	・Rapid Response System(RRS)の目的 ・RRS起動基準を用いた気づきの改善 ・対応チームの設立 ・病状変化時のコミュニケーション

# 事例・動画講義シリーズ (続き)

分類	No.	コース名 概要	実写 アニメーション	対象者	レベル別おすすめコース				ファシリテーション マニュアル掲載	学習ポイント
					全職種	基礎 レベル	中堅 レベル	管理者 レベル		
治療・処置 (続き)	2-9	中心静脈穿刺時のトラブル ランドマーク法で中心静脈カテーテルを挿入された患者さんが死亡した事例	実	看護師 医師		○	○	○	あり	・安全な中心静脈カテーテル挿入のための体制づくり ・中心静脈カテーテルの挿入方法 ・不安を感じたときのコミュニケーションテクニック
	2-10	静脈血栓塞栓症 脳梗塞後の患者さんに生じた重症肺血栓塞栓症の事例	実	医師 看護師 理学療法士 薬剤師		○	○	○	あり	・深部静脈血栓症と肺血栓塞栓症の症状 ・静脈血栓塞栓症予防の重要性 ・静脈血栓塞栓症の予防法 ・資源が不足しているときの対応 ・医療安全をチームで推進することの重要性
	2-11	画像診断報告書の確認不足 CTで前立腺炎と診断された患者さんの画像診断報告書に肺がんの疑いが記載されたが、主治医に確認されず、がんの発見が遅れた事例	実	医師 看護師 放射線技師		○	○	○	近日公開 予定	・オーダーから患者さんへの対応に至る画像検査の原則 ・画像診断報告書の確認不足が起きる背景要因 ・見落としや確認不足を防ぐ方策 ・ヒューマンエラーを防ぐためのシステム構築
医療機器等	3-1	輸液ポンプの操作ミス 輸液ポンプの操作を誤ったために、患者さんに高カリウム輸液を急速に投与してしまった事例	ア	医師 看護師 薬剤師 臨床工学士		○	○		あり	・輸液ポンプに関して起こりやすい医療事故 ・輸液ポンプに関する医療事故の予防策 ・事故が起こってしまった場合の初期対応
	3-2	セントラルモニタ受信患者間違い 用意していた送信機を取り違えて別の患者さんに装着したために、セントラルモニタの心電図波形が入れ替わって表示されてしまった事例	ア	看護師 医師 臨床工学士		○	○		あり	・セントラルモニタの患者間違いが起こる要因を説明できる ・無線式モニタの送信機取り違え防止対策が説明できる
	3-3	中心静脈カテーテル抜去時のトラブル 中心静脈カテーテルを抜去する際に、空気塞栓症による脳梗塞が発生した事例	実	医師 看護師 放射線技師		○	○		あり	・抜去に伴う空気塞栓症のリスク ・中心静脈カテーテル抜去時の注意点 ・処置を実施する体制の整備
	3-4	アラームへの不適切な対応 生体情報モニタの取り扱いとアラームへの対処を誤ったために、患者さんの急変に気づけなかった事例	実	医師 看護師 臨床工学士		○	○	○	あり	・生体情報モニタのアラーム設定方法 ・セントラルモニタの正しい取り扱い ・生体情報モニタ装着時の注意点
輸血	4-1-1	輸血用血液製剤の取り違え (事例) 患者さんに異なる血液型の輸血用血液製剤を輸血してしまった事例	実	医師 看護師 臨床検査技師		○	○	○	あり	・病棟における輸血用血液製剤の管理方法 ・輸血実施時の患者確認のしかた ・異型輸血の早期発見、初期対応方法
	4-1-2	輸血用血液製剤の取り違え (対応例) 患者さんに異なる血液型の輸血用血液製剤を輸血してしまった事例とともに、異型輸血を防ぐためのポイントを考える	実	医師 看護師 臨床検査技師		○	○	○	なし	・病棟における輸血用血液製剤の管理・確認のルールを守る ・ルールを正しく守るため、医療従事者がどのタイミングで、どのような態度・行動をとるべきかを理解する ・異型輸血の早期発見のしかたと初期対応法を知る
ドレーン・チューブ	5-1	気管切開チューブの事故抜去 抜けた気管切開チューブをそのまま押し込んでしまったために患者さんが死亡してしまった事例	ア	看護師 医師		○	○		あり	・気管切開チューブの誤挿入の原因 ・気管切開チューブの事故抜去予防のための管理 ・気管切開チューブが完全に抜けているときの対応 ・気管切開チューブが抜けかかっているときの対応
	5-2	経鼻胃管の誤挿入 経鼻胃管挿入時に誤って気管支に挿入し、経管栄養剤が肺へ誤注入された事例	ア	医師 看護師 放射線技師		○	○		あり	・経鼻胃管挿入時・挿入後のポイント ・経鼻胃管による事故予防策 ・早期発見・早期対応
検査	6-1	造影剤の誤使用 腰部脊柱管狭窄症の精査のために行った脊髄造影検査の際に、髄腔内に投与が禁止されている造影剤を誤って投与してしまった事例	ア	医師 看護師 薬剤師 放射線技師		○	○		あり	・造影剤髄腔内投与のリスク ・検査、処置時の体制整備 ・侵襲的な検査・処置時の環境と体制の整備 ・異常の早期発見とその対応
	6-2	病理検体の取り違え 病理標本の作製過程で検体の取り違えが発生したが、病理診断時に病理医によって発見された事例	実	臨床検査技師 看護師 医師 看護補助者		○	○	○	あり	・病理検体の取り違えは重大な結果となる ・病理標本作製過程には多くの手作業が残存しており、煩雑である ・事故を防止するために、各職種ができる対策
	6-3	電話での不十分な意思疎通による配膳ミス 病棟から栄養部への電話連絡の際、患者誤認が発生した。間違えて食止めされた患者さんが、食前に投与したインスリンの影響で、低血糖発作を起こしてしまった事例	実	栄養士 看護師 医師		○	○		あり	・電話を介した情報伝達リスク ・受け手が心がけること ・送り手が心がけること ・複数の情報を用いて行う患者確認の重要性
療養上の世話	7-1	転倒・転落 床上安静が長かった患者さんが転倒し、それが原因で死亡してしまった事例	ア	すべての職種		○	○	○	あり	・患者さんの転倒・転落が起きる原因と傾向 ・患者さんがなるべく転ばないための環境づくり ・患者さんが転んでもケガをしない対策 ・事故が起こった場合の対応
	7-2	抑制とその注意点 経口挿管中の患者さんの抑制具が外れ、自己抜管しかかっているところを発見した事例	ア	看護師 理学療法士 医師		○	○		あり	・身体抑制について ・抑制による事故が発生しやすい状況 ・抑制具を安全に使う方法を理解する ・抑制を行うにあたっての心構え
	7-3	入院中に発生した転倒 せん妄を認めた患者さんが病室で転倒し、急性硬膜下血腫で死亡した事例	実	すべての職種		○	○	○	近日公開 予定	・転倒・転落の要因 ・転倒・転落の要因へのアプローチ ・チームで事故を防止する方策



事例・動画講義シリーズ (続き)

分類	No.	コース名		概要	対象者	レベル別おすすめコース				ファシリテーション マニキュアル 掲載	学習ポイント
		実写	アニメーション			全職種	基礎 レベル	中堅 レベル	管理者 レベル		
共通基礎	8-1	コンフリクト マネジメント	紛争発見時の対応	看護師が5時間で投与する輸液の設定を間違え、30分で投与してしまい、それに気づいた患者さんが怒っている事例	すべての職種	○	○	○	○	あり	・明らかな誤りが起こったときの対応方法 ・謝罪や患者さんへの配慮の意義 ・適切な報告のしかた ・速やかな対応の大切さ
	8-2		紛争解決の対応	看護師が5時間で投与する輸液の設定を間違え、30分で投与してしまい、それに気づいた患者さんが怒り、当事者同席のもと、主治医が患者さんと面談した事例	すべての職種	○	○	○	○	あり	・紛争時の謝罪の意義 ・当事者が面談に参加する意義
	8-3	労務環境の管理		看護師が体調が悪いにもかかわらず、多くの仕事を引き受け、立ちくらみにより点滴スタンドを倒し、患者さんの顔に輸液ボトルが当たった事例	すべての職種	○	○	○	○	あり	・自分自身の健康管理 ・体力や集中力等、自分自身の限界の把握 ・自分自身や周りの人の精神面も含めた健康状態の管理者への報告のしかた ・労務に関する個人の責任と権利および管理上の責任と権限の理解
	8-4-1	医療安全の 基本を知る (動画講義)	最近の医療安全	動画講義をもとに医療安全の基本を学ぶ	すべての職種	○		○	○	あり	・医療事故の原因究明のための対応 ・レジリエンスエンジニアリングの考えかた
	8-4-2		取り違え	動画講義をもとに医療安全の基本を学ぶ	すべての職種	○	○	○	○	あり	・取り違えによる医療事故 ・取り違え事故防止における対策 ・検体取り扱い時の注意点
	8-5	事故発生時の 対応	スタッフケア	カリウム製剤を急速静注したために容体が急変した患者さんを担当していた看護師に対して、責任追及をし、精神的サポートをせず帰宅させてしまった事例	すべての職種	○	○	○	○	あり	・有害事象(医療事故)後のスタッフに対するケア ・第2の犠牲者(second victim)を出さないための対応
	8-6		患者・家族への説明	カリウム製剤を急速静注したために容体が急変した患者さんご家族へ連絡するが、対応が遅れ、不信感を持たれてしまった事例	すべての職種	○	○	○	○	あり	・望ましくないことが起こったときの患者さん・ご家族への対応 ・医療事故発生時の適切な説明・情報開示のしかた
	8-7		現場保全	医療事故発生時の現場保全・物品保存について学ぶ	すべての職種	○	○	○	○	あり	・有害事象(医療事故)発生後に対応すべきこと ・現場保全の重要性 ・記録の重要性
	8-8-1	医療安全と 関連法 (動画講義)	医療に関する法的責任概要	動画講義をもとに医療安全と関連法を学ぶ	すべての職種	○	○	○	○	なし	・医療に関する法的責任概要
	8-8-2		カルテ記載の重要性	動画講義をもとに医療安全と関連法を学ぶ	すべての職種	○	○	○	○	なし	・カルテ記載の重要性
8-8-3	同意能力と意思決定プロセス		動画講義をもとに医療安全と関連法を学ぶ	すべての職種	○	○	○	○	なし	・同意能力と意思決定プロセス	
8-8-4	医療行為前の同意と説明義務		動画講義をもとに医療安全と関連法を学ぶ	すべての職種	○	○	○	○	なし	・医療行為前の同意と説明義務	
8-9-1	医療事故 調査制度 (動画講義)	2017年9月版	動画講義をもとに医療事故調査制度を学ぶ	すべての職種	○	○	○	○	なし	・医療事故調査制度の概要 ・医療機関として注意すべきこと	
8-9-2		医療事故の再発防止に向けた提言を読む(1)	提言「中心静脈穿刺合併症に係る死亡の分析」を読み解く	医師 看護師		○	○	○	なし	・中心静脈穿刺に関連した死亡事例が理解できる ・事故を防止するための患者管理の方法が理解できる	
8-9-3		医療事故の再発防止に向けた提言を読む(2)	提言「中心静脈穿刺合併症に係る死亡の分析」を読み解く	医師 看護師		○	○	○	なし	・中心静脈穿刺に関連した死亡事例が理解できる ・中心静脈穿刺時の注意点が理解できる	

事例・動画講義シリーズ (続き)

分類	No.	コース名		概要	対象者	レベル別おすすめコース				ファシリテーション マニキュアル 掲載	学習ポイント
		実写	アニメーション			全職種	基礎 レベル	中堅 レベル	管理者 レベル		
共通基礎	8-10-1	Rapid Response System (動画講義)	① RRS 概論	急変を予防するためのシステムであるRRSの基本的知識とRRS構築から実際の運用のコツ、および気づきを強化するために必要な呼吸のみかたを習得できる	すべての職種	○	○	○	○	なし	・「急変」のみかたを変えることができる ・RRSの目的が理解できる ・呼吸測定的重要性が理解できる ・RRS構築の重要性が分かる
	8-10-2		② RRSを上手にかせるコツ	急変を予防するためのシステムであるRRSの基本的知識とRRS構築から実際の運用のコツ、および気づきを強化するために必要な呼吸のみかたを習得できる	すべての職種		○	○	○	なし	・RRS構築の重要性が分かる ・RRSを根付かせるコツを理解できる
	8-10-3		③ 呼吸のみかた	急変を予防するためのシステムであるRRSの基本的知識とRRS構築から実際の運用のコツ、および気づきを強化するために必要な呼吸のみかたを習得できる	医師 看護師		○	○		なし	・呼吸測定の方法を理解できる ・様々な呼吸パターンを理解できる
	8-11-1	感染対策の 概論 (動画講義)	① 総論	病院や施設など医療現場で発生する感染についての基礎知識を身につけることで医療現場での感染対策が正しく行えるようになる	すべての職種	○	○	○	○	なし	・院内感染と感染症の成立過程について理解できる ・院内感染の種類や発生頻度の高い院内感染とその原因について理解できる ・感染症対策のタイミングを理解できる
	8-11-2		② 感染経路と感染経路別予防策	病院や施設など医療現場で発生する感染についての基礎知識を身につけることで医療現場での感染対策が正しく行えるようになる	すべての職種	○	○	○	○	なし	・病原体の感染経路と各感染経路別の予防策を理解できる ・感染経路別予防策を行う場合のポイントを理解できる
	8-11-3		③ 標準予防策(1)	病院や施設など医療現場で発生する感染についての基礎知識を身につけることで医療現場での感染対策が正しく行えるようになる	すべての職種	○	○	○	○	なし	・個人防護具の使用について理解できる ・患者ケアに使用した器材・器具・機器の取り扱いについて理解できる ・周辺環境整備について理解できる ・リネンの取り扱いについて理解できる
	8-11-4		④ 標準予防策(2)	病院や施設など医療現場で発生する感染についての基礎知識を身につけることで医療現場での感染対策が正しく行えるようになる	すべての職種	○	○	○	○	なし	・手指衛生と血液媒介病原体曝露防止について理解できる ・手指衛生の正しい方法を理解できる ・血液媒介病原体曝露防止と曝露時の対応について理解できる
	8-12-1	感染対策の 具体 (動画講義)	① 針刺しおよび血液・体液曝露防止	病院や施設など医療現場で行われる必要のある感染対策についての具体的な知識を身につけることで、医療現場において正しい感染対策が行えるようになる	すべての職種	○	○	○	○	なし	・血液媒介病原体の感染源や感染経路について理解できる ・針刺し時の対応について理解できる
	8-12-2		② ワクチンについて	病院や施設など医療現場で行われる必要のある感染対策についての具体的な知識を身につけることで、医療現場において正しい感染対策が行えるようになる	すべての職種	○	○	○	○	なし	・流行性ウイルス感染症や対策の一つであるワクチンについて理解できる
	8-12-3		③ 医療感染性廃棄物について	病院や施設など医療現場で行われる必要のある感染対策についての具体的な知識を身につけることで、医療現場において正しい感染対策が行えるようになる	すべての職種	○	○	○	○	なし	・医療感染性廃棄物の判断方法を理解できる ・医療感染性廃棄物の管理方法について理解できる
	8-12-4		④ 清掃・リネン・環境の管理について	病院や施設など医療現場で行われる必要のある感染対策についての具体的な知識を身につけることで、医療現場において正しい感染対策が行えるようになる	すべての職種	○	○	○	○	なし	・日常生活環境の清掃や消毒、リネンの取り扱いのポイントを理解できる ・病院における清掃業務担当者の役割と指導方法について理解できる
	8-13-1	指差呼称	患者確認と指差呼称	指差呼称を実施することによって事故を未然に防ぐことができた6事例をもとに、指差呼称の意義と効果を学ぶ	すべての職種	○	○	○	○	あり	・患者確認における指差呼称の意義と効果を知る
	8-13-2		指差呼称って何だろう?	母親の面会に訪れた少女の目線を通して、指差呼称の意義を学ぶ	すべての職種	○	○	○	○	なし	・ご家族の目線を通して指差呼称の意義を学ぶ
	8-14-1	個人情報・ プライバシー (動画講義)	本人・家族との情報のやり取り	医療従事者が取り扱う個人情報について、平成29年5月に改正された点もふまえた「個人情報の保護に関する法律(個人情報保護法)」の概要について学ぶ。患者・家族間、医療従事者間、行政間などで起こり得る個人情報とプライバシーの問題について、事例を通して振り返り、注意すべき課題について、具体的に理解することができる	すべての職種	○	○	○	○	なし	・個人情報保護法の概要を理解できる ・本人同意の重要性を理解できる ・情報の修正に関する諸問題について理解できる
8-14-2	医療従事者間の情報のやり取り		医療従事者が取り扱う個人情報について、平成29年5月に改正された点もふまえた「個人情報の保護に関する法律(個人情報保護法)」の概要について学ぶ。患者・家族間、医療従事者間、行政間などで起こり得る個人情報とプライバシーの問題について、事例を通して振り返り、注意すべき課題について、具体的に理解することができる	すべての職種	○	○	○	○	なし	・委託先との情報のやり取りの際に注意すべきことが理解できる ・他院への紹介の際に注意すべきことが理解できる ・コンサルテーションで個人情報を取り扱う際に注意すべきことが理解できる	
8-14-3	行政機関等との情報のやり取り		医療従事者が取り扱う個人情報について、平成29年5月に改正された点もふまえた「個人情報の保護に関する法律(個人情報保護法)」の概要について学ぶ。患者・家族間、医療従事者間、行政間などで起こり得る個人情報とプライバシーの問題について、事例を通して振り返り、注意すべき課題について、具体的に理解することができる	すべての職種	○	○	○	○	なし	・警察の事例を通して、「守秘義務」「通報義務」と個人情報保護の関係について理解できる ・法定感染症を保健所へ報告する際に注意すべき点が理解できる ・医療事故調査・支援センターへ報告する際に注意すべき点が理解できる	
8-14-4	情報漏えい事故		医療従事者が取り扱う個人情報について、平成29年5月に改正された点もふまえた「個人情報の保護に関する法律(個人情報保護法)」の概要について学ぶ。患者・家族間、医療従事者間、行政間などで起こり得る個人情報とプライバシーの問題について、事例を通して振り返り、注意すべき課題について、具体的に理解することができる	すべての職種	○	○	○	○	なし	・情報漏洩に関する諸問題(USBメモリの紛失、患者情報の誤送信、SNS等による患者情報の拡散等)について理解できる	



事例・動画講義シリーズ (続き)

分類	No.	コース名 実写 ア アニメーション	概要	対象者	レベル別おすすめコース				ファシリテーション マニキュアル 掲載	学習ポイント
					全職種	基礎 レベル	中堅 レベル	管理者 レベル		
共通基礎	8-15-1	抗菌薬を大事にしよう! (動画講義) 実	AMRに立ち向かうために①	抗菌薬の不適正使用による多剤耐性菌の問題を理解し、抗菌薬の適正使用をすすめていく手だてとしての知識を学ぶ。薬剤耐性菌の拡散要因の問題を通して、医療従事者として感染症を拡散させないためにどのような態度であるべきかを学ぶ	医師 看護師 薬剤師	○	○	○	なし	・抗菌薬の有効性と適正な使用方法について理解できる
	8-15-2		AMRに立ち向かうために②	○	○	○	・抗菌薬の不適正使用を減らす方法について理解できる			
	8-15-3		AMRに立ち向かうために③	すべての職種	○	○	○	・薬剤耐性菌を増やさないために、医療従事者一人ひとりができることについて理解を深めることができる		
	8-16-1	病院で働く職員に向けた臨床倫理 (動画講義) 実	臨床倫理総論	職種にかかわらず、病院で働く誰もが知っておきたい「倫理」について、日常の業務で遭遇するような身近な事例を検討しながら、学びを深めていく	すべての職種	○	○	○	なし	・医療倫理学の目的を説明できる ・患者の最善を検討するための基本となる倫理原則を説明できる ・臨床における諸問題を倫理的に考えるために必要な姿勢や能力とは何か説明できる
	8-16-2		インフォームド・コンセントと診療辞退		すべての職種	○	○	○		・インフォームド・コンセントとは何か説明できる ・診療辞退の倫理的基礎について説明できる
	8-16-3		プライバシーと守秘義務の倫理		すべての職種	○	○	○		・プライバシーならびに守秘義務とは何か説明できる ・医療において守秘義務が重要である理由が説明できる ・守秘義務違反、第三者への警告が正当化される条件を説明できる
	8-16-4		人生の最終段階における医療の倫理		すべての職種	○	○	○		・人生の最終段階における医療の倫理について説明できる ・Advance Care Planning の定義について説明できる ・紛らわしい倫理的区別について説明できる
	8-17-1	アウトブレイクを防ごう (動画講義) 実	通年編①	アウトブレイクとは何か、その基準、サーベイランスの重要性について学習する。また、MRSA についてその特徴、具体的な感染経路、感染予防対策、MRSA アウトブレイク時の対応、情報の把握、情報共有の重要性、患者への説明、患者隔離の基準について理解を深める	すべての職種	○	○	○	あり	・MRSA の特徴について理解する ・アウトブレイク予防の具体的な方法について説明できる ・アウトブレイクの基準について説明できる ・アウトブレイク発生時の具体的な対応について理解する ・アウトブレイク発生時の情報共有の方法とその重要性について理解する ・隔離の基準について説明できる
	8-17-2		通年編②	特殊な病原体 (CRE や多剤耐性菌) について学習する。特に CRE について菌の特徴、感染対策、伝播の特徴について理解を深め、アウトブレイクを防止するためにはどのような点に注意するのか、また、アウトブレイク発生時にはどのように情報共有をするのか、アウトブレイク発生時の患者、家族への説明方法について学習する。また、感染拡大防止策において重要となってくる院内環境の整備と物品の具体的な使用方法についても理解を深める	すべての職種	○	○	○		・CRE の特徴について理解する ・アウトブレイク予防の具体的な方法について説明できる ・アウトブレイクの基準について説明できる ・アウトブレイク発生時の具体的な対応について理解する ・アウトブレイク発生時の情報共有の方法とその重要性について理解する ・隔離の基準について説明できる
	8-17-3		秋冬編①	インフルエンザウイルスの特徴、潜伏期間、伝播経路について理解を深める。感染経路別の予防策や病院・施設内におけるインフルエンザ感染者への対応、また、スタッフ自身がインフルエンザウイルスに曝露した際の対処についても学習を深めていく	すべての職種	○	○	○		・インフルエンザウイルスの特徴について理解する ・インフルエンザウイルスの感染伝播の具体的な予防方法について理解する ・スタッフ自身の感染防護策、感染時の対応について説明できる ・消毒薬の具体的な使用方法について説明できる

事例・動画講義シリーズ (続き)

分類	No.	コース名 実写 ア アニメーション	概要	対象者	レベル別おすすめコース				ファシリテーション マニキュアル 掲載	学習ポイント
					全職種	基礎 レベル	中堅 レベル	管理者 レベル		
共通基礎	8-17-4	アウトブレイクを防ごう (動画講義) 実 (続き)	秋冬編②	すべての職種	○	○	○	○	あり	・ノロウイルスの特徴について理解する ・ノロウイルスの感染伝播の具体的な予防方法について理解する ・スタッフ自身の感染防護策、感染時の対応について説明できる ・消毒薬の具体的な使用方法について説明できる
	8-18-1			① 心理的安全性と現場に心理的安全性がないとき!	すべての職種	○	○	○	○	・心理的安全性の定義と歴史的背景を理解する
	8-18-2	② 心理的安全性の歴史と現場に心理的安全性があるとき!	すべての職種	○	○	○	○	・臨床現場、特に医療チームにおける心理的安全性の重要性について説明できる		
	8-18-3	心理的安全性 (動画講義) 実	③ リーダーシップと心理的安全性	すべての職種	○	○	○	○	あり	・心理的安全性におけるリーダーシップの重要性について説明できる
	8-18-4		④ 心理的安全性と医療安全文化	すべての職種	○	○	○	○	・心理的安全性が医療安全に及ぼす影響について説明できる	
	8-19-1	こんなとき 確定前から始める 感染対策 シミュレーション (動画講義) 実	① 結核編	結核の基礎知識、検査と診断、治療、感染対策、結核を疑う外来患者への初期対応について学ぶ。N95 マスクのシールチェックについて理解する	すべての職種	○	○	○	○	・結核の基礎知識、検査と診断、治療、感染対策、結核の疑いがある外来患者への初期対応が分かる ・N95 マスクのシールチェックができる
	8-19-2		② 麻疹編	麻疹の基礎知識、典型麻疹と修飾麻疹の違い、検査と診断、治療、基本再生産数と伝播の特徴について学習し、発生時の対応が行えるようにする	すべての職種	○	○	○	○	・麻疹の基礎知識、典型麻疹と修飾麻疹の違い、検査と診断、治療、基本再生産数と伝播の特徴、発生時の対応が分かる
	8-19-3		③ クロストリジオイデス・ディフィシル編	クロストリジオイデス・ディフィシル感染症 (CDI) の特徴、基礎知識、診断、感染対策について学習する	すべての職種	○	○	○	○	・CDI の基礎知識、診断、感染対策が分かる



事例・動画講義シリーズ (続き)

分類	No.	コース名 実写 アニメーション	概要	対象者	レベル別おすすめコース				ファシリテーション マニュアル 掲載	学習ポイント	
					全職種	基礎 レベル	中堅 レベル	管理者 レベル			
共通基礎	8-19-4	こんなとき どうする? 確定前から 始める 感染対策 シミュレーション (動画講義) 実 (続き)	④ 薬剤耐性菌編	代表的な耐性菌であるカルバペネム耐性腸内細菌科細菌 (CRE)、基質特異性拡張型βラクタマーゼ産生菌 (ESBL)、多剤耐性緑膿菌 (MDRP)、バンコマイシン耐性腸球菌 (VRE) の基礎知識や感染対策について学習する	すべての職種	○	○	○	○	あり	・代表的な耐性菌であるカルバペネム耐性腸内細菌科細菌 (CRE)、基質特異性拡張型βラクタマーゼ産生菌 (ESBL)、多剤耐性緑膿菌 (MDRP)、バンコマイシン耐性腸球菌 (VRE) の基礎知識や感染対策が分かる
	8-19-5		⑤ 新興感染症編	昨今、重大な問題になっている新興感染症について、事例を通して基礎知識や感染対策を学習する	すべての職種	○	○	○	○	あり	・新興感染症の基礎知識と感染対策が分かる
	8-20-1	医療安全の 中の多様性を 考える 前向き医療安全 のススメ (動画講義) 実	① 医療安全でポジティブ?ネガティブ?	医療安全の潜在的なマイナス面を認識し、前向きな医療安全の概念について学ぶ	すべての職種	○	○	○	○	なし	・前向きな医療安全の概念のポイントを説明できる
	8-20-2		② ポジティブな心理と医療安全	物事のいろいろな側面を前向きに捉えるポジティブ心理学から、医療安全に必要な考え方を理解し、ポジティブな情報共有の必要性について学ぶ	すべての職種	○	○	○	○	なし	・ポジティブ心理学から医療安全に必要なポイントを理解できる ・ポジティブな情報共有のスキルを説明できる
	8-20-3		③ マインドフルネスな多様性の認識	医療チームにおけるマインドフルネスな多様性の認識の重要性について学ぶ	すべての職種	○	○	○	○	なし	・医療チームにおけるマインドフルネスな多様性の認識の重要性を理解できる
	8-20-4		④ 前向きな出来事の捉え方	出来事を前向きに捉える考え方と前向き医療安全の心がけについて学ぶ	すべての職種	○	○	○	○	なし	・心理的安全性と Safety-II 的な成功と失敗の考え方から、前向き医療安全の心がけを理解できる
	8-21-1	新型コロナ ウイルス 感染症 (COVID-19) の 基礎知識 (全職種向け) (動画講義) 実	① COVID-19 の概要	COVID-19 で押さえておきたい疫学として、年齢階級者別陽性者数と死亡数、致命率、重症化する割合を理解し、重症化のリスク因子について学ぶ また、新型コロナウイルス (SARS-CoV-2) の構造や変異株を理解し、主な感染経路と感染リスクが上がる場面について学ぶ (2021年7月17日収録)	すべての職種	○	○	○	○	あり	・COVID-19 の疫学について理解できる ・COVID-19 が重症化する割合とリスク因子について理解できる ・新型コロナウイルスの構造を理解し、接触・飛沫・マイクロ飛沫感染などの主な感染経路を理解できる
	8-21-2		② ワクチンの基礎知識	国内で認可されている新型コロナウイルスワクチンについて、効果、接種対象、副反応を理解し、ワクチンの基礎知識について学ぶ (2021年7月17日収録)	すべての職種	○	○	○	○	あり	・国内で認可されているワクチンの接種方法や効果、接種後の副反応について理解できる
	8-21-3		③ SARS-CoV-2 の感染予防	新型コロナウイルスの感染予防として、手指衛生、咳エチケット、マスクの種類と効果、換気、消毒方法および組織として行うべき感染予防について学ぶ (2021年7月17日収録)	すべての職種	○	○	○	○	あり	・新型コロナウイルスの感染予防として、手指衛生、咳エチケット、マスクの種類と効果、換気、消毒方法について理解できる ・組織として行うべき新型コロナウイルスの感染予防と、個人が日ごろからチェックしておきたい健康状態の項目を理解できる
	8-21-4		④ COVID-19 の対処法	COVID-19 の症状と頻度、症状が出現するまでの期間、症状が出現した場合の対応について学ぶ また感染しない、感染しても重症化しないための日々の健康管理について学ぶ (2021年7月17日収録)	すべての職種	○	○	○	○	あり	・COVID-19 の症状と発生頻度、潜伏期間と症状が生じたときの対応を理解できる ・新型コロナウイルスに感染しないために、日々の健康管理のヒントを得ることができる

事例・動画講義シリーズ (続き)

分類	No.	コース名 実写 アニメーション	概要	対象者	レベル別おすすめコース				ファシリテーション マニュアル 掲載	学習ポイント	
					全職種	基礎 レベル	中堅 レベル	管理者 レベル			
共通基礎	8-22-1	新型コロナ ウイルス (SARS-CoV-2) の感染対策 (医療従事者 向け) (動画講義) 実	① 医療従事者の感染対策	新型コロナウイルス (SARS-CoV-2) 感染対策としての標準予防策および感染経路別予防策の基本的知識を学ぶ (2021年7月17日収録) ※この講義を受講される前に「08-21-1～08-21-4 の新型コロナウイルス感染症の基礎知識」を受講してください	医療従事者	○	○	○	○	あり	・標準予防策の主な項目および実施対象について理解できる ・接触感染・飛沫感染など感染経路別予防策について理解できる
	8-22-2		② PPE の着脱	PPE (個人防護具) の着脱方法について、動画をもとに実践的に学ぶ (2021年7月17日収録)	医療従事者	○	○	○	○	あり	・PPE の正しい着脱について、ポイントを押さえながら理解できる
	8-23-1	診療用放射線の安全利用 (動画講義) 実	その 1. 医療被ばくの基本	診療用放射線の利用について理解するために、「被ばく」の基本について学ぶ	医師 看護師 薬剤師 放射線技師	○	○	○	○	なし	・医療被ばくの要因と対象が理解できる ・「医療被ばく」と「職業被ばく」「自然被ばく」「公衆被ばく」の違いが理解できる ・放射線防護の 3 原則が理解できる
	8-23-2	診療用放射線の安全利用 (動画講義) 実	その 2. 放射線診療の正当化について	診療用放射線の利用に係る安全管理のために、放射線診療の正当化について学ぶ	医師 看護師 薬剤師 放射線技師	○	○	○	○	なし	・放射線診療における標準的な線量について理解できる ・放射線診療のメリットとデメリットが理解できる ・行為の正当性の考え方が理解できる
	8-23-3	診療用放射線の安全利用 (動画講義) 実	その 3. 医療被ばくの防護の最適化について	診療用放射線の利用に係る安全管理のために、医療被ばくの防護の最適化について学ぶ	医師 看護師 薬剤師 放射線技師	○	○	○	○	なし	・放射線診療における画質と線量の関係が理解できる ・放射線診療における最適化の原則が理解できる ・診断参考レベル (DRL) による最適化の流れが理解できる
	8-23-4	診療用放射線の安全利用 (動画講義) 実	その 4. 放射線の過剰被ばく、その他の放射線診療に関する事例発生時の対応等について	診療用放射線の利用に係る安全管理のために、放射線の過剰被ばく、その他の放射線診療に関する事例発生時の対応等について学ぶ	医師 看護師 薬剤師 放射線技師	○	○	○	○	なし	・有害事例と医療被ばくの関連性の検証について理解できる ・放射線障害 (皮膚障害) の事例およびその発生原因について理解できる ・皮膚障害発生時の処置方法や、その他の具体的な対応について理解できる
	8-23-5	診療用放射線の安全利用 (動画講義) 実	その 5. 放射線診療を受ける者への情報提供について	診療用放射線の利用に係る安全管理のために、放射線診療を受ける者への情報提供について学ぶ	医師 看護師 薬剤師 放射線技師	○	○	○	○	なし	・当該医療施設における説明行為の対応者について理解できる ・放射線診療実施前に説明し、同意を得ておくべき内容について理解できる ・想定される被ばく線量とその影響の伝え方について理解できる ・放射線診療実施後の問い合わせへの対応の際のポイントについて理解できる
	8-24-1	個人情報・プライバシー (動画講義) [2022年更新] 実	① 「本人・家族との情報のやり取り」	医療従事者が日々の業務に携わる上で取り扱う個人情報について、令和 4 年 4 月に施行された改正点もふまえた「個人情報保護に関する法律 (個人情報保護法)」の概要について学ぶことができます。また、患者・家族間、医療従事者間、行政間などで起こり得る個人情報とプライバシーの取り扱いに関する問題について、事例を通して振り返り、医療従事者として注意すべき課題について、具体的に理解することができます。	すべての職種	○	○	○	○	なし	・個人情報保護法の概要を理解できる ・本人同意の重要性を理解できる ・情報の修正に関する諸問題について理解できる
	8-24-2	個人情報・プライバシー (動画講義) [2022年更新] 実	② 「医療従事者間の情報のやり取り」	医療従事者が日々の業務に携わる上で取り扱う個人情報について、令和 4 年 4 月に施行された改正点もふまえた「個人情報保護に関する法律 (個人情報保護法)」の概要について学ぶことができます。また、患者・家族間、医療従事者間、行政間などで起こり得る個人情報とプライバシーの取り扱いに関する問題について、事例を通して振り返り、医療従事者として注意すべき課題について、具体的に理解することができます。	すべての職種	○	○	○	○	なし	・委託先との情報のやり取りの際に注意すべきことが理解できる ・他院への紹介の際に注意すべきことが理解できる ・コンサルテーションで個人情報を取り扱う際に注意すべきことが理解できる



事例・動画講義シリーズ（続き）

分類	No.	コース名		概要	対象者	レベル別おすすめコース				ファシリテーションマニュアル掲載	学習ポイント
		 実写	 アニメーション			全職種	基礎レベル	中堅レベル	管理者レベル		
共通基礎	8-24-3	個人情報・プライバシー (動画講義) [2022年更新] 	③「行政機関等との情報のやり取り」	医療従事者が日々の業務に携わる上で取り扱う個人情報について、令和4年4月に施行された改正点もふまえた「個人情報の保護に関する法律（個人情報保護法）」の概要について学ぶことができます。また、患者・家族間、医療従事者間、行政間などで起こり得る個人情報とプライバシーの取り扱いに関する問題について、事例を通して振り返り、医療従事者として注意すべき課題について、具体的に理解することができます。	すべての職種	◎	◎	◎	◎	なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>警察の事例を通して、「守秘義務」「通報義務」と個人情報保護の関係について理解できる</li> <li>法定感染症を保健所へ報告する際に注意すべき点が理解できる</li> <li>医療事故調査・支援センターへ報告する際に注意すべき点が理解できる</li> </ul>
	8-24-4	個人情報・プライバシー (動画講義) [2022年更新] 	④「情報漏えい事故」		すべての職種	◎	◎	◎	◎	なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人情報漏洩に関する諸問題（USBメモリーの紛失、患者情報の誤送信、SNS等による患者情報の拡散等）について理解できる</li> <li>個人情報漏洩等の際の個人情報保護委員会への報告及び本人への通知について理解できる</li> </ul>
分析手法	9-1-1	ImSAFER (動画講義) 	導入編	動画講義をもとに、医療事故の分析手法であるImSAFERに必要な基礎知識を身につける	すべての職種	◎	◎	◎	◎	なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療事故の見方・考え方を伝えることの重要性を説明できる</li> <li>ヒューマンエラーとは何かを説明できる</li> <li>ImSAFERの目的と構造を説明できる</li> </ul>
	9-1-2		分析を始める前に		すべての職種	◎	◎	◎	◎		<ul style="list-style-type: none"> <li>ImSAFERによる分析に必要な事前準備を学ぶ</li> </ul>
	9-1-3		手順1		すべての職種	◎	◎	◎	◎		<ul style="list-style-type: none"> <li>問題点の抽出のポイントを理解できる</li> </ul>
	9-1-4		手順2		すべての職種	◎	◎	◎	◎		<ul style="list-style-type: none"> <li>時系列事象関連図作成のポイントを理解できる</li> </ul>
	9-1-5		手順3		すべての職種	◎	◎	◎	◎		<ul style="list-style-type: none"> <li>背後要因の探索のポイントを理解できる</li> </ul>
	9-1-6		手順4, 5		すべての職種	◎	◎	◎	◎		<ul style="list-style-type: none"> <li>改善策の列挙・決定ポイントが理解できる</li> </ul>
	9-1-7		手順6, 7		すべての職種	◎	◎	◎	◎		<ul style="list-style-type: none"> <li>改善策実施のポイント・評価のポイントが理解できる</li> </ul>
医療安全管理者対象	10-1-1	研修 	SafetyPlusを使ったファシリテーションの方法	SafetyPlusを使った研修ファシリテーションの方法を動画で解説（ファシリテーションマニュアルの動画版）	すべての職種	◎		◎	◎	なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>SafetyPlusを使った研修ファシリテーションの方法が説明できる</li> </ul>



エルゼビア・ジャパン株式会社 ソリューション営業本部

〒106-0044 東京都港区東麻布 1-9-15 東麻布1丁目ビル 3階

TEL / 03-3589-6372

公式ホームページ内お問い合わせフォーム <https://www.elsevier.com/ja-jp/solutions/safetyplus/contact-us>

公式ホームページ

<https://www.elsevier.com/ja-jp/solutions/safetyplus>

 [セーフティプラス](#)  で検索

